

水族館月報

No. 150

1965年2月

2月の入場者数

一 般		団 体		有料合計	特別観覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
56,943	721	18,507	220	76,393	380

前年度比	1964	1965	増 減
入場者数	69,914	76,393	+ 6,479

水族館記事

- ◎ 4日 水族館より、研究室、実習室への海水給水主管（4インチ鉛管）は、標本室東側道路の埋設部分より漏水がひどくなったので、水族館中庭からこの部分までを硬質塩化ビニール管と取替えた（西村水道）。
また、この機会にNo.24、40の給水管（従来埋設式であったため取扱いに不便であった）を垂下式に改めた。
- ◎ 同日 本学奥田総長、横田事務局長、速水理学部長、市川所長、宮谷事務長等一行視察来所。
翌5日、実験所および水族館の将来計画を現地教官より説明した。
- ◎ 5日 堺浦のクエ延縄漁師より、エビスザメ（全長186cm、体重31.5kg）が入槽、No.24水槽に収容した。
本種は いわゆる人喰ザメではないが、外洋性で、歯がかなり鋭いので、客に危害を与えないよう、また、この水槽は俯観式であるため、客のいたずらがた

えず、しかも エビスザメが表層を泳ぎ廻るために、それにさわろうとする者が多いので、水槽のまわりに巾50cmの網をとりつけた。

その後1週間は、槽内を悠然と泳ぎまわり異彩を放っていたが、捕獲時の外傷が悪化し、8日目から動作が次第に緩慢となり15日に死亡した。

- ◎ 9日 附近の岩礁に、冬季着生するアマノリ、メノリを雑食性魚類の餌として、試供したところ、チョウチョウオ類、ニザダイ類がかなり良く食べることがわかったので、これをサンゴ礁魚類の餌に定期的に加えることとした。

- ◎ 13日 堺浦よりハナザメ（全長185cm、体重33kg）が入槽。

前記のエビスザメと同じく、クエ延縄にかかったもので歯が非常に鋭く、人喰ザメの仲間に入れられているものである。

このサメは体の平衡を失ったまま狂泳したり、水底に横たわったりするので展示水槽には入れられず、屋外ウミガメプールに収容した。

その後失衡状態が回復しないまま、23日に死亡。解剖の結果、内臓諸器官には内出血が認められず、失衡より死に至った主因は、漁獲時の打撲ではなく、低温によるもの（当時の水温11.7°C）と思われる。

体表には入槽時に見られなかった白斑が多数現われていた。

なお、エビスザメ、ハナザメとも、頭部と尾部だけを固定保存することとした。

- ◎ 20日 G水槽へ新着のタカアシガニ雌2個体を収容。

例年この頃に捕獲されるタカアシガニは生殖回遊群なので、5月上旬までは、水槽内でも雌の奪い合いから斗争がたえず、そのために歩脚を損じて死に至るものが多かった。

この対策として、本年はG水槽の中央を網で仕切り、前年から飼育中のカニと新着カニを隔離することにした。

- ◎ 24～26日 荒賀助手は上野動物園水族館での飼育技術者研究会に出席。

そのあと、同館および読売ランド水族館を見学、調査した。

- ◎ 2月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
3日午後	南浜防波堤附近	磯採集	1	カメノテ、フジツボ類
8日午後	塔島東～かなとこ	SCUBA潜水	3	熱帯性の磯魚
13日午後	〃	〃	3	〃
15日夜	南浜防波堤附近	夜間磯採集	1	潮間帯の動物
16日夜	番所崎灯台下	〃	1	〃
19日夕方	塔島西磯	打網	2	磯魚

上記のほか、地引網便乗採集3回。

今年は暖冬のため例年より早く、2月14日から地引網漁が始まった。

ウスバハギ、ウミスズメなどが多数入槽したが、暖冬とはいえ低温のため歩止りは極めて悪かった。

2月に入っても、まだ、附近の岩礁で越冬している熱帯性魚類がかなり認められる。

13日の潜水採集のさいに水温を測定したところ、「かなとこ」附近の海底（水深15m）で16.0^oCであった。また、この日に新調の大型捲網（高さ2.5m、長さ10m）を始めて用いたが、小型捲網では捕えにくかったスズメダイ、イトヒキベラなどを容易に採集できた。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物： ☆アカクラゲ、ピロウドトゲトサカ、トゲナシヤギ、アカヤギ、カメノテ、クロフジツボ、ムラサキゴカクガニ、ノコギリガニ、☆カモンダカラ、☆コモンダカラ、ミスガイ、ヒカリウミウシ、ホウズキフシエラガイ、ウミギク、ミミイカ、ヒメコウイカ、オキノテズルモズル、アカウニ。

魚類： ムギイワシ、トウゴロウイワシ、クロサギ、ホウセキキントキ、タナバタウオ、ミナミゴンベイ、クマノミ、スズメダイ、イトヒキベラ、ハタタテダイ、オニハタタテダイ、テングハギ、ニザダイ、ウスバハギ、ウミスズメ、☆サザナミフグ、ハシナガウバウオ、

2. 購入

堺、芳養の延縄漁師からの入槽が主で、無脊椎動物の購入はタカアシガニだけであった。

主な購入魚類名： ☆エビスザメ、☆ハナザメ、ナヌカザメ、ホシザメ、ガンギエイ、ユリウツボ、サビウツボ、オキノシマウツボ、オキナヒメジ、セダカアカハタ、チダイ、ニセフサカサゴ、セミホウボウ。

◎ 飼育概況

例年この月には低温のために死亡する熱帯性の無脊椎動物（オ1水槽室開放式水槽で飼育）が、今年は暖冬のため元気で、真冬にもかかわらず下記のコレクションを維持できた。

J水槽の磯魚の白点病は先月にひき続き慢性化したまま、根治できなかった。そのほか、T-1・T-5両槽に発生したが、初期治療により被害はほとんどなかった。また、T-1水槽のミツボシクロスズメ1尾が逆鱗症（一名まつかさ病）にかかり、アクリフラビン浴、ネグボン、硫酸銅浴などを試みたが奏効せず、13日に死亡した。幸い、この病気は他魚へは感染しなかった。

2月28日現在、飼育中の動物は、総計494種3442個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は478種3120個体以上。

カイメン類 1種 1個体	ゴカイ類 4種 8個体	イカ類 2種 2個体
ヒドロ虫類 2" 14"	カブトガニ類 1" 2"	タコ類 3" 7"
ハチクラゲ類 -" -"	フジツボ カメノテ類 4" 162"	ウミシダ類 5" 15"
ウミトサカ類 7" 28"	エビ類 15" 187"	ヒトデ類 8" 108"
ヤギ類 9" 52"	シヤコ類 2" 2"	クモヒトデ類 5" 13"
ウミエラ類 1" 6"	ヤドカリ類 14" 154"	ウニ類 14" 95"
イソギンチャク類 10" 121"	カニ類 40" 148"	ナマコ類 7" 31"
イシサンゴ類 13" 81"	アメフラシ類 12" 35"	ホヤ類 7" 48"
ツノサンゴ類 2" 3"	二枚貝類 15" 246"	軟骨魚類 9" 49"
ハマギンチャク類 1" 15"	巻貝類 42" 507"	硬骨魚類 233" 1266"
ホウキムシ類 -" -"	ヒザラガイ類 1" 5"	カメ類 3" 28"

資 料

2月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：24	7	9	8
室温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{7.7 \sim 13.0}{9.9}$	$\frac{10.0 \sim 14.0}{11.4}$	$\frac{7.9 \sim 14.3}{10.0}$
水温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{12.0 \sim 15.8}{13.9}$	$\frac{13.0 \sim 15.6}{14.3}$	$\frac{12.0 \sim 15.5}{13.8}$
比重（ 15°C ）	$\frac{25.64 \sim 25.99}{25.80}$	$\frac{25.44 \sim 25.76}{25.67}$	$\frac{25.62 \sim 25.89}{25.75}$

才3水槽室（水温）

H水槽（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{21.0 \sim 23.0}{21.6}$	$\frac{21.0 \sim 23.7}{22.3}$	$\frac{21.0 \sim 23.0}{22.2}$
T-8水槽（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{13.0 \sim 15.8}{14.4}$	$\frac{14.4 \sim 15.7}{15.0}$	$\frac{12.4 \sim 16.3}{14.0}$

海水取入口

水温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{12.5 \sim 16.0}{14.1}$	$\frac{14.0 \sim 16.2}{15.0}$	$\frac{13.0 \sim 16.2}{14.1}$
比重（ 15°C ）	$\frac{25.74 \sim 25.98}{25.86}$	$\frac{25.75 \sim 25.97}{25.86}$	$\frac{25.69 \sim 25.89}{25.83}$

昭和 4 1 年 3 月 1 5 日 (№ 1 5 0)

編集兼発行者 市 川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所
和歌山県西牟婁郡白浜町
電話 (白浜) 2047. 3515